

導入サービス・ソリューション

タブレット

インターネット・セキュリティ



## タブレットを導入し 生徒に変化が現れ始めた

### 生徒自ら望んだものを調べ 知識を広げることが 学習意欲の向上につながる



神村慎二 理事長

常田恭一 副理事長

2016年からタブレットの導入を開始した神村学園様。神村慎二理事長は「生徒が自ら望んだものを調べ、知識を広げていくことが学習意欲の向上につながっていく」と、これからの時代に求められる学びにつながるタブレットの導入を推進。常田恭一副理事長も「ICT機器が既に大学や職場で使われていたので、学校の中できちんと教育していくべきだと考えた」と話す。建学の精神である「実学による人間性豊かな人柄教育を行う」のもと、タブレットを活用し新しい学びを提供している。

### ▶ 1人1台のタブレット導入が“総合探究”で大活躍



特に“総合探究”では  
タブレットがなくてはならない存在に

タブレット導入前は、教員が使うか心配だったそうだが「教員が取り合うぐらいの状況だった」と、中等部の西牟田隆廣校長は導入当時を振り返る。グラフや写真・動画を手軽に用いることができることが、生徒の理解につながりやすいと最初に感じられたという。そして、2019年度から1人1台の導入が始まると“総合探究”の授業でタブレットが大活躍した。自ら好きなことを調べ、仲間と議論し、発表用にまとめていくことにスピード感や便利さが役立ったのだ。



中等部  
西牟田隆廣 校長



高等部文理科 科長  
明日山浩行 教諭

### ▶ ノートをとる時間を削減し演習問題の時間を増加

数学の授業では、あまりとれていなかった演習問題の時間を確保できたという。これまでノートをとることに割いていた時間を、タブレットで黒板を写真に撮ることで時間を削減。それに伴い、講義時間を授業の半分となる25分に抑えたのだ。「25分で完結すると分かっていると生徒も集中して聞いてくれる」と高等部文理科の科長、明日山浩行教諭は話す。演習問題が25分できると公式を使った実践的な問題ができ、基礎からの復習にもつながっていく。このとき、過去の黒板の写真を振り返ることも可能だ。高等部の文系の生徒からの「数学が嫌い」という声が減っているという。これまで以上に理解度が上がっている証拠と言えるだろう。さらに、各種授業動画が見られる「スタディサプリ」を導入し、各自のレベルにあわせ個別学習や、病気や部活の遠征で休んだ際に学習を補うものとしての活用もしている。



タブレットで黒板の写真を撮り復習に使用